

1984年4月8日

SSKO No. 50 第12回総会議案集

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会
 事務局 東京都 [REDACTED]
 〒161 電話 [REDACTED]
 郵便振替口座 [REDACTED]
 加入者名 東腎協



Mihoko

元・福元美保子

昭和五十一年二月二十五日第三種
 SSKO通巻第九三一号(毎週二)
 昭和五十九年三月二十六日発行
 印刷物認可
 曜日・金曜日発行

第12回総会ご案内

東腎協規約第六条により、左記の通り第12回総会を障害者福祉会館において開催します。会員、家族の皆さん、お誘いのうえご参加下さい。

記

- 一、日時 昭和五十九年四月八日(日)
 一、次第 第十二回総会(午前十一時)

記念講演(午後二時から)

「透析医療の現状と将来」

講師・小出輝先生(順天堂大
 学医学部内科助教授)

- 一、会場 東京都障害者福祉会館

〒108 港区芝5-18-12

TEL 〇三(四五五)六三二一―三

※総会は午前十一時から行われますので、
 参加者には弁当を用意します。

△交通 △山手線田町駅下車か都営地下鉄

1・6号線三田駅下車

△駐車場 △会館前に無料駐車場の設備が
 あります。

会場への案内図



東腎協第12回総会次第

開会あいさつ

議長 団選出

会長 あいさつ

△報告事項△

活動報告、決算報告

監査報告

△審議事項の提案△

活動方針案、予算案

スローガン、総会宣言

新役員選出

閉会のあいさつ

総会終了後、記念講演

昭和58年度活動報告(案)

一、はじめに

一月二十五日に決定された昭和五十九年度予算政府案は、一般会計の前年度比〇・五%増という中で、五十八年度に引き続き防衛費が六・五五%増と突出する一方、私たちの生活に直接かわり合いのある健康保険制度の改悪や文教費の削減、消費者米価・国鉄運賃の値上げなどに盛り込まれました。また、二年ぶりに認められた年金や恩給の物価スライド二%や七年ぶりの所得税減税も見返り増税の酒税・物品税や公共料金の値上げ(私鉄・都営交通・上下水道等)で差し引き赤字ということにもなりかねません。

このような状況の中で、第十一回総会で決められた活動方針、①東京都及び都議会各党に対する陳情・要請活動、②組織運営上の目標、③長期的目標などに基

づき次のような活動を進めてきました。

二、主な活動と成果

(1) 都当局に対する要請活動

私たちは昨年七月十四日、昭和五十九年度東京都予算編成にあたり、「腎疾患総合対策を確立するための患者代表を含めた対策委員会の設置」等二十項目の要望書を都に提出しました。そして、衛生局医療福祉部、同病院管理部、同医務部、同公衆衛生部、福祉局心身障害者福祉部、同老人福祉部、労働経済局職業安定部、同職業訓練部、総務局人事部、同災害対策部等に対し要請しました。また、東京難病団体連絡協議会(略称東難連)が行った衛生局、福祉局、住宅局、労働経済局に対する要請行動にも参加しました。

一月二十四日発表された昭和五十九年

度東京都予算知事原案では、私たちの都に対する要望事項の中で、「心身障害者福祉手当の増額」(昭和五十九年十月から九、〇〇〇円が九、五〇〇円)が認められました。また、重度身障者の雇用促進では、昭和五十八年度に引き続き重度障害者多数雇用事業所設立調査費二百万円が計上されました。

(2) 教育・宣伝活動

機関誌『東腎協』は、今年度も年四回定期発行し、会活動の状況や会員の体験意見などを掲載し、会員の情報源としてその役割を果たしました。一月二十五日付の四十九号では、特別区の別枠採用合格者全員による対談記事「区役所に就職して」を掲載するなど、五十八年度中に発行した四十六号・四十九号は全て二十ページだてとなりました。

昨年四月三日に開催された第十一回総会の記念講演は、講師に東京医科大学の中川成之輔先生を迎え、「新しい透析療法CAPDについて」と題する講演を受けました。最近、CAPDはマスコ

などでもたびたび取り上げられ、また、会員の関心も深くタイムリーな企画となり好評でした。

また、幹事・常任幹事・各病院患者会代表者を対象とした学習交流会は、昨年七月十七日に東京都障害者福祉会館で開催され、三十八人が参加しました。この学習会では、日恵同盟の古川圭助副会長から「医療と福祉をめぐる最近の動向」の講演を受けました。

今年度の会員交流会は、地域活動への試みとして二十三区内と多摩地区で一回ずつ開催しました。第一回目は昨年六月五日、千代田区西神田の労音会館で開催され、交流会始めて以来最高の七十人が集まり、医療や福祉の問題、治療上の悩み、移植のことなどについて意見を交換しました。また、二回目の交流会は十一月六日、小金井市中町の小金井市民会館で開催され、二十五人が参加し、健康保険制度改悪問題や社会復帰の問題について活発な話し合いが行われました。

都民を対象とした東難連主催の「腎臓病医療相談会」は、昨年十一月十三日に東京都障害者福祉会館で開催され、三十

人（男性十一人、女性十九人）の方々が相談を受けました。医療スタッフは、順天堂大学医学部内科助教小出輝先生、同講師（飯田橋クリニック所長）角原孝先生、同講師吉田政彦先生、同講師磯沢進先生が担当され、（社）東京都医療社会事業協会の相談員（MSW）の方々のご協力を得ました。この医療相談会は、東腎協が加盟している東難連が東京都から委託されている事業で、都民への腎臓病の知識普及という観点から行っているものです。

(3) 腎バンク拡大について

第三回腎バンク拡大全国統一街頭キャンペーンは、昨年九月十八日に実施され、全国の約二百二十カ所で六千人以上が参加しました。東腎協では上野、銀座、渋谷、新宿、立川の五カ所で行い、一昨年を大幅に上回る二百五十四人が参加しました。銀座では、テレビドラマで事故死した息子の腎臓を提供する母親役を演じたご自身もドナーとして登録している女優の榎山文枝さんや、清瀬小児病院で腎移

腎バンクキャンペーン（83・9月）



植を受けた子供さんたちも応援に駆けつけ、チラシを配布しながら腎バンク登録を訴えました。この街頭キャンペーンの模様は各テレビ局から放映されましたが、NHKの扱いがローカルニュースだったこと、申し込み先電話番号のテロップが入らなかったことなどもあり、一昨年のキャンペーンが大きな反響を呼んだことに比べると今ひとつという感じでした。街頭キャンペーンの成果を東京地区の登録数で見ると、キャンペーンの前の月である昨年八月の登録数八十六人に対し、

九月の登録数は百七十一人と倍増してはいるものの、第二回キャンペーン後の昭和五十七年十月の登録数二百七十六人には及びませんでした。今回のキャンペーンは、参加者数で前回を大きく上回ったものの、登録数ではそれなりの成果が挙げられなかったということで、今後は方法、場所、マスコミ対策等について検討して行う必要があります。また、今回のキャンペーンでは、全腎協より依頼のあった「自動車運転免許所持者の腎臓提供登録に関する意識調査」も同時に行われました。

また、都衛生局地域保健課に要請し、多摩地区十七保健所に腎臓提供者登録カードを九月から設置してもらいました。

(4) 国会請願署名について

昨秋から会員の皆さんに取り組んでいた「腎臓病をはじめとする「腎疾患総合対策」の早期確立を要する」国会請願署名は、昨年を上回る三二、九一三人（二月二日現在）、同時に行われた全腎協が加盟している全国患者

家族団体連絡会の「医療保険をはじめとする社会保険制度の改悪に反対する」国会請願署名は、一五、二九〇人（二月二日現在）でした。また、募金は、両方合わせて二、一八一、八二四円（二月二日現在）で、その内八四五、八六六円を全腎協に納入しました。

全腎協の国会請願は、二月二日に行われ、全国三十九都道府県から百十八人が参加しました。東腎協からは二十六人が参加し、衆・参両院の社会労働委員九人に紹介議員になっていただくよう要請しました。

(5) 健保制度 改悪反対運動について

厚生省は昨年八月二十五日、医療保険制度の抜本的改悪を盛り込んだ昭和五十九年度予算の概算要求を発表しました。

その中で明らかにされた内容は、①被用者保険本人の給付率を八割に引き下げる、②入院時の給食材料費一日当たり六百元を患者負担とする、③ビタミン剤・総合感冒薬・健胃剤を保険適用から除外する、④退職者医療制度の創設、⑤高額

療養費自己負担限度額を引き上げるなどとなっており、国民の医療福祉を大きく後退させる内容でした。

東腎協では十月十二日、緊急幹事会を開き、すでに進めている健保法改悪に反対する「抗議はがき運動」の他、都議会への陳情や全腎協・全国患者家族団体連絡会など関係団体の運動への積極的な参加などを決め、「医療保険制度抜本改正に反対する声明」を採択しました。そして、十月二十二日の全腎協主催の厚生省交渉（十一人参加）、十月二十四日の全国患者家族団体連絡会主催の厚生省交渉（三十人参加）、十一月三日の健保制度改悪の街頭署名（八人参加）、十二月二十四日のクリスマス患者集会（二十八人参加）などにそれぞれ積極的に参加しました。

昭和五十九年度予算政府案は、一月二十五日に閣議決定されましたが、その中で、入院時給食材料費の患者負担やビタミン剤などの保険適用除外などは見送られることになりました。しかし、私たちが反対の最重要項目にあげていた被用者保険本人一割負担と高額療養費自己負担

限度額の引き上げ（五一、〇〇〇円から五四、〇〇〇円）などは盛り込まれる結果となりました。この政府案がマスコミで報道されるや、東腎協や全腎協の事務局に、患者会や会員から医療費についての問い合わせが相次ぎ、会員の皆さんの関心の高さを示しました。私たちは、今後関係団体と協力し、反対運動を強めていく必要があります。

また、全国患者家族団体連絡会の「医療保険をはじめとする社会保険制度の改善に反対する」国会請願署名は、例年の全腎協の国会請願署名と重なり会員の皆さんにご苦勞をかけたが、二月二日現在、一五、二九〇人になっています。

一方、東京都議会に対しては十一月九日、七項目から成る「医療保険制度改正に関する陳情書」を東難連として提出しました。昨年十二月一日閉会された都議会第四回定例会で政府に対する「医療保険制度の改正に関する意見書」が可決されました。

(6) 事務局体制強化と組織拡大

今年度は、事務局長半専従体制がしかれ、アルバイト職員と合わせて毎週月・水・木の三日間と、第一・第三金曜日の朝九時三十分から午後五時十五分まで事務所を開けることができ、永年の懸案であった事務局体制強化という点で大きな前進がありました。

このような状況の中で各患者会役員の努力もあり、昨年度末で二、五四三人であった会員数が二、九五七人に増えました。また、患者会も三つの会が解散または退会した反面、新たに七つの患者会が入会し、東腎協加盟患者会は六十三に増えました。

しかし、東京における透析患者数五、四四〇人（五十七年末人工透析研究会調べ）に対し組織率が五十四％ということ、組織強化、財政基盤の確立のため、会員拡大の努力が必要です。

(7) 就職問題について

昨年十二月八日、労働経済局職業安定部職業課の心身障害者職業紹介業務担当者研修会に東腎協から役員三人が出席し、

都内十七職業安定所の担当者に対して、透析患者の就職について理解を深めてもらうための講演を行いました。

昭和五十六年度から行われている身障者別枠採用は、特別区で五十六年度の二人、五十七年度の四人に続き五十八年度も四人の腎機能障害者が合格しました。

しかし、私たちの要望にもかかわらず、東京都では今年度も腎臓機能障害者を採用しておらず、今後も粘り強い運動が必要です。

(8) 他団体との連携について

全腎協の第十三回総会は、昨年五月十五日仙台市の宮城県民会館で開かれ、東腎協からは役員十二人が参加しました。

また、全腎協へは副会長として石川會計が、運営委員として泉山副会長、幹事としてノノ清副会長がそれぞれの立場で協力、活躍しています。

その他全腎協関係では、第十三回関東ブロック会議（九月二十四・二十五日・於山梨県甲府市）に三人が出席しました。全国難病団体連絡協議会の第九回総会

(四月二十四日開催)には八人、第九回全国患者団体連絡協議会大会(十月三十日開催)には七人がそれぞれ全腎協の代議員として出席しました。また、昭和五十九年度予算案の復活要求のための全難連・全患連の統一行動にも三人が参加しました。

東腎協が加盟している東難連は、今年度も平沢副会長が会長を務め、東京都の委託事業である難病相談、都庁各局、都議会各党への都予算案に関する要請、陳情などの活動をしてきました。昨年七月二十八日に行われた東難連主催の昭和五十九年度都予算に対する要請行動には、東腎協から役員三人が参加しました。一月二十四日発表された昭和五十九年度東京都予算知事原案では、八年ぶりに母斑症が東京都単独事業として認められました。また、都立新大塚病院の完成予定が一年早まり、昭和六十二年度開院になるなどの成果がありました。

その他、国際障害者年東京都連絡協議会へは、今年度も引き続き平沢副会長が出席し、東京都行動計画後期計画の策定にあたり、内部障害者の立場から提言し

てきました。

三、おわりに

以上のような活動を今日の厳しい情勢の中で行ってきましたが、一定の成果を得た反面、未解決の問題や活動不足であった問題も多く残りました。

事務局は、今年度から事務局長半専任体制がしかれましたが、最近では常任幹事もほとんどの人が仕事を持っており、また、会員数も来年度は三千人を超えることが確実で、事務局体制の強化については、財政問題も含め今後とも努力していくことが必要です。

最近、各種の福祉サービスが区市町村の単独事業として行われる場合が多く、従って各区市町村間で格差があります。これらの格差をなくし、きめの細かい福祉を求めるなどの運動が急務となっています。これらに対応するため、東腎協ではプロック化や各区市町村別の患者会を作ることも検討していますが、現在の役員不足という状態では実現がむずかしく、活動家の養成が急務となっています。

す。会員の皆さんの積極的な運動参加と協力をお願いするとともに、よりよい医療と福祉のため今後とも手を取り合い頑張りましょう。

昭和 58 年度特別会計決算報告(自 S.58. 3. 1 ~至 S.59. 2. 29)

1) 収入の部	
1. 前期より繰越	4,380,199
2. 昭和 57 年度国会請願募金	3,2262
3. 昭和 58 年度国会請願募金	2,181,824
4. 10 年誌頒布収入(『あゆみ』)	197,000
合 計	<u>6,791,285</u>
2) 支出の部	
1. 全腎協上納分	448,518
2. 全国患者家族団体連絡会上納分	397,348
3. 一般会計繰入金	750,000
4. 国会請願当日参加費用	25,000
5. 通 信 費(振替手数料)	27,424
6. 10 年誌発送料	22,335
7. 同上代金送金手数料	2,170
8. 腎臓提供者拡大キャンペーン費	13,795
9. 健保改悪反対抗議はがき代	32,160
10. クリスマス患者集会参加費	28,000
合 計	<u>1,746,750</u>
3) 次期へ繰越	<u>5,044,535</u>

昭和 59 年度特別会計予算(案)

1) 収入の部	
1. 前期より繰越	5,044,535
合 計	<u>5,044,535</u>
2) 支出の部	
1. 一般会計に繰入	750,000
2. 全腎協第14回総会参加費	100,000
3. 腎提供拡大キャンペーン費	100,000
合 計	<u>950,000</u>

〈注〉 昭和 60 年度全腎協国会請願署名、東腎協東京都及び東京都議会への署名、請願行動が行われる場合は、それに必要な費用を特別会計から支出する事を御了承下さい。

おことわり……昭和 58 年度決算、同監査報告、昭和 59 年度予算案は当日配布し、機関誌 51 号で掲載します。

昭和58年度活動記録

（58年）

- 3・3 「全腎協」No.62発送（池井）
- 3・12 東難連運営委員会出席（平沢）
- 3・13 第50回常任幹事会開催（17人）
- 3・16 各県組織宛東腎協総会の案内状を発送する
- 3・17 総会招待者宛東腎協総会の案内状を発送する
- 3・19、20 全腎協幹事会に出席する（石川、一ノ清、高橋）
- 3・23 都福祉局、都労働経済局へ「あゆみ」を配布する 都福祉局長・労働経済局長宛総会案内状を持参する（平沢、森）
- 3・24 日本トラベノール株式会社CAPD教育課海野氏を訪問、総会の挨拶状と議案書を持参する（森）
- 3・28 昭和57年度の特別区の別枠採用試験の結果腎臓障害者が4人合
- 4・7 格していることがわかった
- 3・20 武富氏来局57年度の会計監査を受ける（石川）
- 3・21 山田氏来局（石川）
- 4・2 東難連運営委員会出席（平沢）
- 4・3 東腎協第11回総会開催（参加者数169人）
- 4・4 「東腎協」No.46編集入稿（加藤）
- 4・5 石川県腎友会第12回大会へメッセージを発送する
- 4・7 第11回総会の礼状を発送する
- 4・14 全腎協No.63発送（池井）
- 4・16 香川県腎臓病友の会、鳥取県腎友会、長野県腎協、愛知県腎臓病患者連絡協議会の各総会に祝電を発信する
- 4・17 第51回常任幹事会開催（出席者16人）
- 4・16 帝京大学病院、板橋内科クリニック合同食事指導会出席
- 4・20 都庁へ東腎協総会後の挨拶に行
- 4・20 全難連第9回総会開催（出席者8人）
- 4・24 「東腎協」No.46「全腎協」No.64発送（宝生、池井）
- 4・30、5・1 全腎協運営委員会開催（石川）
- 5・2 京都腎臓病患者協議会第13回総会へメッセージを発送
- 5・7 東難連運営委員会開催（平沢）
- 5・11 兵庫県腎友会、富山県腎友会、福井県腎友会、栃木県腎臓病患者友の会各総会へメッセージを発送する
- 5・15 「役員12名出席」全腎協第13回総会開催（仙台）
- 5・16 広島県腎友会第14回総会にメッセージを発送する
- 5・20 会員の就職問題で労働経済局職員課に要請
- 5・23 会員の就職問題で、特別人事委員会任用課長・都福祉局心身障害者福祉部計画課にそれぞれ要請

- 5・28 第5回展望委員会開催
(宝生、高橋、森、小林)
- 5・29 第52回常任幹事会開催(出席者18人)
- 5・30 千葉県腎臓病患者連絡協議会総会へメッセージを発送、会員の就職について、国立市花松議員に要請
(小泉、宝生)
- 6・1 静岡腎臓友会総会へメッセージ発送、清瀬園自治会へ出席
(森)
- 6・2 会員の就職の件で台東区役所職員課、都福祉局心身障害者福祉部計画課へ要請
(宝生、森)
- 6・4 東難連運営委員会に出席
(平沢)
- 6・4と5 全腎協運営委員会に出席
(泉山、石川)
- 6・5 東腎協会員交流会開催
(参加者70人)
- 6・9 昭和59年度都予算に対する要望書を都各局へ提出する
会員の高額医療費請求書問題で衛生局病院管理部経営企画室に要請
(宝生、森)
- 6・12 全国患者・家族団体連絡会結成総会に出席
(出席者9人)
- 6・14 会員の都立病院転院の件で、病院管理部経営企画室に要請
(宝生)
- 6・15 岐阜県腎臓病患者連絡協議会、北海道腎臓病患者連絡協議会総会にメッセージを発送する
- 6・16 千葉県腎臓病友の会・福島県腎臓病患者連絡協議会の各総会にメッセージを発送する
- 6・19 第53回常任幹事会開催
(出席者20人)
- 6・20 茨城県腎臓病患者連絡協議会第12回総会にメッセージを送る
機関誌「東腎協」№47入稿
(加藤)
- 6・22 京都腎臓病総合対策推進連絡協議会第12回総会にメッセージを発送する
- 6・23 7月14日に行動予定の都庁要請の事前打合せのため各局を訪問する
(森)
- 6・27 福島県腎臓病患者連絡協議会第14回総会にメッセージを発送する
- 6・30 「全腎協」№65発送
(森、池井)
- 7・2 東難連運営委員会出席
(森)
- 7・3 「東腎協」№47校正
(加藤)
- 7・14 群馬県腎臓病患者連絡協議会第11回総会へメッセージを発送する
- 8/14開催の座談会「区役所に就職して」の案内状を発送する
ベイチェット友の会第14回全国大会へメッセージを発送する
- 7・11 59年度都予算に関する要請行動
(参加者10人)
- 7・15 第11回国際障害者年東京都連絡協議会の資料とするための59年度予算についての要望書を福祉局へ提出
(森)
- 7・16と17 全腎協代表者会議に出席
(泉山、一ノ清)
- 7・17 東腎協学習交流会開催
(参加者38人)
- 7・18 「東腎協」№47発送
(加藤、森、池井)
- 7・26 国際障害者年東京都連絡会に出席
(平沢)

- 7・28 東難連主催・59年度都予算に關する要請行動
(平沢、石川勇、森)
- 8・11 都庁要請
(森)
- 8・14 座談会「区役所に就職して」開催
(泉山、木村、森)
- 8・16 関東ブロック会議の案内状及び資料の作成発送
(石川)
- 8・18 医療相談会の医師派遣について飯田橋クリニックを訪問
(平沢、森)
- 8・21 第54回常任幹事会開催
(出席者18人)
- 8・25 腎臓病医療相談会の医師派遣依頼のため順天堂大学腎臓学研究室棟沢先生を訪ねる
(平沢、森)
- 8・27 第6回展望委員会開催
(宝生、泉山、一ノ清、高橋、森、石川)
- 8・29 岩手県第5回総会へメッセージを発送する
(出席者17人)
- 9・1 都衛生局地域保健課に多摩地区保健所に腎バンク登録カード設置について要請する
(森)
- 9・14 都労働経済局職業課に第3セクタ1方式の重度身障者多数雇用事業所について要請する(森)
- 9・1 全腎協66号発送(宝生、池井)
- 東腎協48号編集
(加藤)
- 9・3 東難連運営委員会出席(平沢)
- 9・3 4 全腎協運営委員会出席
(泉山、石川)
- 9・6 築地・上野・新宿の各警察署へ街頭キャンペーンの道路使用許可申請に行く
- 9・8 渋谷警察へ街頭キャンペーンの道路使用許可申請に行く(森)
- 厚生省記者クラブへ街頭キャンペーンの記者発表に行く
(小林、森)
- 国際障害者年東京都連絡協議会出席
(平沢)
- 9・11 三役会議開催(泉山、一ノ清、高橋、平沢、森)
- 第55回緊急常任幹事会開催
(出席17人)
- 9・4 腎研クリニック、勉強会、慈秀病院視察会に出席
(宝生)
- 9・8 展望委員会報告、常任幹事会報告、健保法改悪反対の抗議、ハガキ運動要請書を発送する
- 9・16 第4回都労自治研集会「衛生医療分科会」難病対策分散会へ出席する
(森)
- 9・18 第3回全国統一腎バンク登録拡大街頭キャンペーン実施(別紙報告書有)
- 9・20 国際障害者年東京都連絡会に出席
(平沢)
- 9・24 25 関東ブロック会議「甲府」に出席(石川、一ノ清、高橋)
- 9・26 東腎協48号入稿
(加藤)
- 9・28 健保法改悪反対の抗議ハガキ運動の要請書を個人会員に発送する
- 10・1 東難連運営委員会に出席(平沢)
- 10・2 第11回緊急幹事会開催
(参加28人)
- 10・4 常任幹事池井弘氏心筋梗塞のため、14日早朝虎の門分院で永眠す
- 10・4 国際障害者年東京都連絡会出席
(平沢)
- 10・8 東腎協48号校正
(加藤)

- 10・13 東難連主催 共産党都議団への
来年度都予算に関する陳情
(宝生、平沢)
- 「東京都訪問教育研究協議会」
の病虚弱児の教育についての懇
談会に出席 (森)
- 10・15 豊島病院訪問 透析室の将来に
ついて用談する (宝生)
- 10・16 第56回常任幹事会開催
(出席者19人)
- 10・19 全腎協、患者家族団体連絡会の
国会請願署名用紙を発送
- 10・20 日本社会党都議団、知事室へ59
年度予算要望書を提出
(森、平沢)
- 10・21 国際障害者年東京都連絡協議会
に出席 (平沢)
- 10・22 全腎協厚生省交渉に参加
(泉山、高橋) (11人参加)
- 10・22、23 全腎協幹事会に出席
全国患者家族団体連絡会の厚生
省交渉に参加 (30人参加)
- 10・30 全患連第9回定期大会に参加
(7人参加)
- 11・1 都議会公明党へ健保法改悪反対
- 11・3 の陳情の件で要請(橋、泉山)
連絡会の健保法改悪反対の街頭
署名募金に参加
- 11・4 全腎協No.67号発送準備
(泉山、石川、柳)
- 11・5 東難連運営委員会に出席
(石川みさ)
- 11・5、6 全腎協連営委員会に出席
(平沢)
- 11・6 会員交流会開催 (25人参加)
(泉山、石川)
- 11・7 都広報部放送主査菊地氏来局
- 11・9 医療保険制度改正に関する陳情
書を講案課へ提出する
(森、平沢)
- 11・13 腎臓医療相談会開催
(10人参加)
- あけぼの病院祝賀会に出席
(宝生)
- 宮城県腎協の学習会に出席
(泉山)
- 11・14 国際障害者年東京都連絡会出席
- 11・16 会員の就職の件で日黒区役所訪
問 (森)
- 医療保険制度改正に関する陳情
の件で、都議会自民党・都議会
民主クラブ・共産党都議団・社
会党都議団にそれぞれ要請
- 11・20 西新井病院腎友の会総会に出席
(森)
- 代々木病院千駄ヶ谷クリニック
の開院式に出席 (宝生)
- 11・22 病院管理部訪問 都立豊島病院
の件で要請 (宝生)
- 共産党木村都議に豊島病院の間
題で要請 (宝生)
- 12・3 東難連運営委員会に出席
(平沢)
- 12・4 国立王子病院腎友会、東池袋サ
ンシャイン会総会出席 (泉山)
- 12・8 労働経済局職業安定部職業課、
心身障害者職業紹介業務担当者
研修会に出席 (宝生、泉山、森)
- 12・12 都広報部菊地氏と東京映画協会

荒井氏来局、東腎協の活動など
 に関し、12/16に事務所にて
 資料をすることになった
 (加藤、森)

1・12 都障害者福祉会館へ第12回總會
 の会場利用申し込み (森)

1・14 東腎協No.49校正 (加藤)

1・14/15 全腎協運営委員会出席
 (泉山)

2・26 第12回幹事会開催(参加35人)
 稿
 2・27 東腎協議案書(東腎協No.50)入
 (加藤)

12・12 東腎協No.49号の編集 (加藤)

12・16 東京レポルト録画撮りに出演
 (森)

1・19 順天堂大学礫沢先生に東腎協第
 12回總會の記念講演の講師の派
 遣を依頼する (森)

12・17 第7回展望委員会開催
 (宝生、泉山、一ノ清、高橋、
 平沢、森、小林)

1・21 全難連・全思連統一厚生省交渉
 に参加する (泉山、高橋、竹川)

12・18 第57回常任幹事会開催
 (出席者17人)

1・24 59年度東京都予算案を受領する
 (平沢)

12・22 クリスマス患者集会のゼッケン
 作り (宝生、森、小泉)

1・29 第58回常任幹事会開催
 (出席者18人)

12・29 常任幹事和田雄二さん死去
 (1/28) 通夜に出席する
 (宝生)

2・2 国会請願行動日、東腎協より26
 人が参加

2・4 東難連運営委員会に出席する
 (平沢)

〈59年〉

1・5 仕事始め 都衛生局特殊疾病対
 策課、同病院管理部経営企画室、
 労働経済局職業課、福祉局医療
 助成課、同計画課などへ年始
 (平沢、森)

2・9 東腎協No.49号発送 (柳)

2・16 都庁要請、福祉局、衛生局
 特別会計決算案、一月会計報告
 作成 (石川)

昭和59年度活動方針（案）

昭和五十九年度予算政府案に盛り込まれた健康保険制度の改悪は、単に医療費の患者負担増大という問題ではなく、今まで積み上げられてきた社会保障制度を切り崩そうというもので臨調路線の「自立・自助」の精神の下に、憲法で保障している国の社会的使命を否定するものです。私たち腎臓病患者は、十数年前のあの暗黒な時代を忘れることはできません。文字通り生命を賭けた運動を乗り越え、今日に至っています。しかし、今、私たちが築き上げたものが崩されようとしています。今こそ、三、〇〇〇人の会員と共に一致団結し、強力な運動を展開する必要があります。本年度は重点目標を次のように決め活動いたします。

一、東京都及び都議会各党に

対する陳情・要請活動

- (1) 医療供給体制の整備に関する要望
1. 東京都における腎疾患総合対策を確立すること
2. すべての都立病院に腎外来の専門医を配置すること
3. すべての都立病院に透析施設を設置すること
4. 都立豊島病院の透析室を拡大すること
5. 都立大久保病院の腎センターを移植の出来る総合腎センターにすること

6. 都立病院で夜間透析を実施すること
7. 災害時の緊急透析治療体制を確保すること

(2) 医療・生活保障に関する要望

1. 被用者保険本人も心身障害者医療費助成制度の対象とすること
2. 慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること
3. 心身障害者（児）医療費助成制度の対象を四級まで拡大すること
4. 心身障害者福祉手当を増額すること
5. 災害時の通院交通手段を確保すること

6. 働ける腎臓病患者の社会復帰を促進すること

7. 区市町村で福祉対策を拡充すること
- ### 二、組織運営上の目標

1. 腎提供者確保のため、引き続き運動を続けます
2. 各患者会及び会員の交流と学習を行います
3. 機関誌『東腎協』を定期発行します
4. 腎臓病の知識普及啓蒙に努めます
5. 全腎協・東難連と連携・協力し、運動を進めます
6. 会員拡大をはかり次の総会までに三、二〇〇人を目標とします
7. 幹事、常任幹事の学習を強化します

三、中・長期目標

組織運営上の問題で、東腎協のブロッカ化や財政問題、全腎協や東難連との連携強化などの中・長期的な視野に立つ必要のある問題は、展望委員会で継続的に論議を進めます。

昭和59年度スローガン(案)

- 一、予防から社会復帰にいたる腎総合対策の確立を!
- 二、慢性腎炎患者の医療費公費負担を!
- 三、都立病院で夜間透析の実施を!
- 四、腎臓病の治療、研究促進を!
- 五、区市町村での福祉対策の拡充を!
- 六、働ける腎臓病患者に社会復帰の道を!
- 七、活動内容を充実し、三千二百人の東腎協を!

文書発言もできます

東腎協規約第六条で、総会にたいして文書による発言も認められています。

なお、総会議案にたいする意見のある方は、封書、はがき等別紙に書いて三月末日(必着のこと)までに東腎協事務局へお送り下さい。

△送り先▽

〒161東京都新宿区下落合3-15-129

田沼ビル

東腎協事務局

全腎協・全国患者家族団体連絡会国会請願署名・基金集計(昭59.2.2)

患者会名	全腎協	連絡会	募金額	患者会名	全腎協	連絡会	募金額
青 山 会	60	30	10,000	調 布 病 院 腎 友 会	677	417	74,051
あけぼの病院友の会	323	199	44,400	月島サマリア腎友会	1,079	460	70,000
天 野 腎 友 会	100	40	6,000	帝京大学病院腎友会	331	50	30,000
飯田橋クリニック腎友会	410	400	25,000	東京共済病院腎友会	70	10	1,000
和泉クリニック腎友会	119	89	3,500	中板橋南腎友会	56	50	12,000
今尾医院腎友会	350	160	10,000	中島病院腎友会	65	65	10,000
入谷クリニック腎友会	246	110	21,190	中野クリニック	140	34	12,400
上野しのばず会	695	499	30,600	長原三和クリニック腎友会	112	96	12,300
大田病院腎友会	160	60	15,000	西新井病院腎友の会	1,030	550	49,200
大橋クリニック腎友会	475	91	13,300	西池袋黎明会	527	252	41,256
大山中央腎友会	681	248	31,080	日伸ビルクリニック腎友会	253	170	7,000
織本病院腎友会	324	276	49,200	東池袋サンシャイン会	217	117	10,905
嬉泉病院ニューレ友の会	4,965	1,895	196,212	東 村 山 康 腎 会	717	235	37,500
北 病 院 腎 友 会	304	150	20,000	東高円寺フェニックス会	1,120	453	60,600
北多摩病院腎友会	450	187	41,300	豊 生 会	606	290	59,160
吉祥寺クリニック腎友会	719	285	47,200	南千住クリニック児童会	77	30	6,900
杏 林 腎 友 会	370	110	18,000	南多摩病院のぼら会	544	201	31,300
京葉病院腎友会	154	42	7,900	三の輪病院腎友会	—	—	—
国立王子病院腎友会	424	193	45,660	大和病院透析友の会	538	318	50,280
三 和 会	80	30	4,000	谷中三和クリニック腎友会	—	—	—
三軒茶屋病院腎友会	2,287	1,137	103,440	代々木病院腎友会	1,293	618	53,409
慈秀病院白慈会	639	322	47,640	両国クリニック腎友会	41	61	4,400
城南クリニック腎友会	258	141	20,460	板橋内科板友会	338	206	53,380
昭和大学病院百合の会	79	29	12,600	聖橋クリニック腎友会	92	92	—
松和患者会西新宿支部	907	449	43,057	拝島三井クリニック腎友会	100	50	—
松和患者会四ツ谷支部	583	250	15,180	竹口病院腎友会	144	40	5,000
松和患者会目白支部	393	137	18,830	八王子腎クリニック腎友会	150	66	9,800
しろかね会	141	195	24,700	高松病院成増腎友会	154	155	9,600
人工腎臓虎の門・高津会	1,419	578	96,180	東神田クリニック腎友会	—	—	—
新・新宿クリニック腎友会	71	60	12,600	小 計	29,641	13,849	1,831,014
千駄木腎友会	164	70	11,000	個人会員	3,166	1,425	331,210
立川共済病院腎友会	27	—	4,600	事務局	106	16	19,600
立川第一相互病院希望会	588	220	52,644	合 計	32,913	15,290	2,181,824
立川クリニック親睦会	200	81	17,100				

昭和五十一年二月二十五日第三種
SSK O 通巻第九三一号
昭和五十九年三月二十六日発行

物認可

発行所

身体障害者団体定期刊物物協会
東京都世田谷区砧八一二一三

頒価百円